

東京 肝臓のひろば

令和4年(2022年)8月号

第249号

特定非営利活動法人 東京肝臓友の会

〒161-0033 東京都新宿区下落合4-27-5-201
電話 (03) 5982-2150 振替 00120-6-40564
FAX (03) 5982-2151 口座名 東京肝臓友の会
<http://www.tokankai.com>



ホルステン門—ドイツ—

切り絵・佐藤廣士(再掲載)

第58回日本肝臓学会総会「国際シンポジウム」で肝炎患者を代表し、米澤事務局長が英語で発表、 メディカルスタッフセッションでも患者が登壇

6月2日、3日、パシフィコ横浜で「第58回日本肝臓学会総会」が開催され、2日特別企画1「国際シンポジウム Towards the elimination of viral hepatitis from Asia/Pacific-where are we?」において「肝炎患者の立場から」という演題で東京肝臓友の会の米澤事務局長が登壇、英語による発表を行いました。このセッションは広島大学大学院教授の田中純子先生の司会により進行、世界各国(米国、中国、台湾、韓国、オーストラリア、日本)10名の演者が、肝炎の現状、対策、課題等について講演しました。海外の先生方は残念ながらリモート参加でしたが、それぞれの現状を詳しく知ることができる素晴らしい機会となりました。会場ではスポンサー企業のご厚意により同時通訳のサービス

を受けることができたため、多くの患者さんの参加がみられました。東京肝臓友の会の米澤事務局長は最後10番目の登壇で、海外と比較し充実している日本の肝炎対策と課題となっている肝炎患者に対する偏見、差別について事例を紹介しながら今後の具体策を訴えました。国際シンポジウムという特別な場で肝炎患者が講演したのは初めてで、私たち患者にとっても大きな経験となりました。

3日のメディカルスタッフセッション「肝炎医療コーディネーターの現在と未来」では「我が国の肝炎・肝がん対策における肝炎患者や患者会の役割」肝炎医療コーディネーターとしての活動と次世代の医療者への受講推進」という演題で、米澤事務局長と東京肝臓友の会で埼玉県の肝炎コー

ディネーターである鈴木和彦さんが、自身の活動を紹介しながら患者肝炎コーディネーターの役割について講演しました。

第58回日本肝臓学会総会の患者登壇にあたり、大きなご尽力をいただいた学会会長の考藤達哉先生、メディカルスタッフセッションの江口有一郎先生にこの場を借りてあらためてお礼を申し上げます。

※国際シンポジウムでの発表内容は次号に掲載予定です



もくじ | Index

東京肝臓のひろば 249

2 事務局長学会で発表

3 「肝臓病の食事と栄養」 (2021年10月放送「大人のラヂオ」から) 虎の門病院栄養部 部長 土井 悦子先生

13 「肝疾患拠点病院、肝疾患相談センターで働くこと」 (2021年4月放送「大人のラヂオ」から) 虎の門病院肝疾患相談センター 寺本 いずみさん

23 PBC・AIH・PSC通信

24 ジコメン・メディカル・シンヤク

帝京大学病院 田中 篤先生

25 東京肝臓友の会 活動日誌 (6月、7月) 情報BOX 同病者による面談相談ごあんない 書籍ごあんない

ラジオNIKKEI 第1

大人のラヂオ

2021年10月8日放送



『肝臓病の食事と栄養』

ゲスト 虎の門病院栄養部 部長 土井悦子先生

進行 東京肝臓友の会 米澤敦子

米澤 今回の今回は、『肝臓病の食事と栄養』についてお送りいたします。ゲストは虎の門病院栄養部部長の土井悦子さんです。よろしくお願いいたします。

土井 よろしくお願ひいたします。

中略

●管理栄養士の仕事

米澤 まずは簡単に、虎の門病院でどのようなお仕事をされているのか教えていただけますか？

土井 病院ですので、365日・朝昼晩と、入院されている患者さんに安全な食事を提供することが第一の大きな役目です。もちろん、厨房に出て材料を仕込んだり調理したり盛り付けたりもします。病棟で患者さんが召し上がって

いるかどうか状況を確認して、より良い食事の内容や、食が進まない方には違った形のものを提案したりしています。

管理栄養士の場合は診療科の医師と違って、専門性を深く追求していくのが難しいので広く浅くにはなりますが、それぞれの病気のタイプに合わせた栄養管理方法や食事療法の仕方を、栄養相談でお伝えしています。入院中に栄養相談でお話ししたり、ご自宅で社会生活をしながら療養されている方には外来通院の時の栄養相談でお伝えする、というのがおそらくイメージされやすい仕事内容だと思います。

米澤 管理栄養士さんというと、私たちの中ではやはり栄養指導のイメージが強いんです。ある程度の規模がある病院では、主治医の先生から「このあと栄養指導を受けて下さいね」と言われて管理

栄養士さんの所に行つて、食事について伺うというイメージです。

土井 大きなものはそういう所だと思います。

最近では、食物アレルギーをお持ちの方も増えているので、入院の最初の1食目から安全なお食事を提供しようという取り組みをしています。ご入院が決まった段階で、入院前面談というものが行われます。これは入院支援センターのカウンターで、看護師と薬剤師、必要な場合は医療ソーシャルワーカーが、患者さんからお話を伺います。その面談で食物アレルギーがあるとか食事に関して不安があることを看護師さんが察知した場合、管理栄養士に連絡が入るので、駆けつけて患者さんと面談します。このような流れも最近はできてきました。

米澤 栄養部の部長になられた

ということですが、現在は患者と関わるようなお仕事をされているのでしょうか？

土井 栄養部総務課、と呼べるような仕事が多いなとは感じますが、患者さんとお目にかかる時間は業務全体の2割から3割くらいで、栄養相談だったり病棟で入院患者さんとお話ししたりしています。ご質問をお手紙でくださる患者さんもいらつしやいますし、まず担当の看護師さんにお尋ねになった場合は、看護師さんから対応をお願いしますと連絡があつて、患者さんにお答えすることもあります。

米澤 患者にも対応して組織の中のこともやつて、お忙しいですよ。

土井 そうですね。栄養部全体がうまく動いていくように考えるのが、本当は一番の役目だと思います。

います。

米澤 やり甲斐がありますか？

土井 いくら頑張つてもこれできていくという所には達しないのですが、できたらいいのになと思っていることが、一つでも自分の力でなくても、栄養部のスタッフの力でうまく前に進んだときに、やり甲斐や達成感を感じられます。

米澤 肝臓病で慢性疾患だと、これで良くなりました、治りましたという例がなかなかないですが、脂肪肝などはもしかしたら達成感があるのかもしれないですね。

土井 そうですね。脂肪肝も皆さん頑張つておられますが、すっかり良くなりました、となるのはやはり一朝一夕には難しいので、気長に細く長く頑張りましたよというところでしょうか。

米澤 脂肪肝やNASH（非アルコール性脂肪性肝炎）についてはまた後で詳しく伺います。

土井さんはいろいろな疾患すべての患者を見ていらつしやるのですよね。

土井 そうです。様々な疾患すべてになります。糖尿病の方の栄養相談が最も多いですが、その他にも腎臓病や、入院中の患者さんではがんの化学療法の治療中と思うように栄養が摂れない方などです。高齢の方も増えてきましたので、飲み込みがうまくいかない、不安があるという方の安全な食事の形や硬さ、調理の仕方をご家族にお話しするというところもあります。臓器移植や血液の移植治療をされた方ですと、免疫抑制剤もお飲みになつていて、感染の対策で安全管理についてお話しすることもあります。抵抗力が落ちているところに変

な食品を食べて体内で感染を起こさないように、というようなお話しします。

米澤 そうなのですね。

（ 中略 ）

●肝臓病の食事と栄養

【慢性肝炎】

米澤 では今回のテーマ、『肝臓病の食事と栄養』について伺ってまいります。

まず慢性肝炎です。C型肝炎はウイルスを排除できるようなになったので患者の数としては非常に少なくなってきましたが、B型肝炎や脂肪肝、NASH（非アルコール性脂肪性肝炎）や自己免疫性肝疾患などで特に注意することがあれば伺いたいと思います。

す。それぞれの病状、状態によるのでなかなか難しいと思いますが、慢性肝炎で特に気をつけることは何かありますか？

土井 食べる物がそのまま治療になるわけではないので、安全に治療を続けていただくために治療や薬の効果を最大限引き出すということだと、おそらくご自身にとつて「良い体重」を維持していただくのが一番だと思います。かつては、肝臓病では安静にしましょうと言われていたことがありました。安静が必要な時期もあります。安安静静で大事にし過ぎてお家にこもって動かなくなると、肝臓に脂肪がついてきてしまつて肝臓の働きが落ちるということもあります。ですから適度に動いていただいて、肥満がある方は少しでも落としていただく。適正な量をとることがどの方にも共通しているお話だと思います。

肝臓検査.com
kanzo-kensa.com

ウイルス



食べ過ぎ



アルコール



運動不足



フィブロスキャン検査は
肝臓の硬さだけでなく

脂肪量の測定も保険適用になりました

フィブロスキャン検査や保険適用の詳細につきましては
下記ホームページに掲載されている最寄りの病院にお尋ねください



肝臓検査 .com

で検索！



QRコードを
読み込んで検索！



第26回 日本肝臓学会大会

市民公開講座

参加費
無料

事前申し込みが必要です

肝臓病そうだったのか!!

開催日

2022年9月11日 日 13:00-15:15

会長

坂元 亨宇 慶應義塾大学医学部 病理学

開催形式

Web開催

ライブ配信

PROGRAM

司会 坂元 亨宇 先生 第26回日本肝臓学会大会 会長 / 慶應義塾大学医学部 病理学

開会の辞 13:00 ~ 13:05

第一部 講演

1. アルコールによる肝臓病 そうだったのか!!

13:05 ~ 13:35

堀江 義則 先生 医療法人社団 慶洋会 ケイアイクリニック

2. 肝臓癌そうだったのか!!

13:35 ~ 14:05

谷木 信仁 先生 慶應義塾大学病院 消化器内科

3. 脂肪肝そうだったのか!!

14:05 ~ 14:35

楮 柏松 先生 慶應義塾大学病院 消化器内科

第二部 パネルディスカッション 14:40-15:10

- トピックス
1. 肝臓病を顕微鏡で覗いてみよう
 2. 肝臓と腸の不思議な関係
 3. これからどうなる、肝臓病

パネリスト 堀江 義則 先生 医療法人社団 慶洋会 ケイアイクリニック
谷木 信仁 先生 慶應義塾大学病院 消化器内科
楮 柏松 先生 慶應義塾大学病院 消化器内科
中本 伸宏 先生 慶應義塾大学病院 消化器内科
辻川 華子 先生 慶應義塾大学病院 病理診断科

閉会の辞 15:10 ~ 15:15

参加申込受付締切

申込方法

参加申込フォームまたはE-mailにてお申込みください。

9月5日 月
17:00まで



参加申込みフォーム

または

<https://onl.sc/cNV88bg>

✉ E-Mail ①~④をご記入の上、メールをお送りください。

jsh26-pub2022@c-linkage.co.jp

①参加者名(フリガナ) ②電話番号 ③メールアドレス
④講演者への質問があればご記入ください

※当日、チャットでも質問を受付予定です。

※ご記入いただいた質問は必ずしも回答できるとは限りません。予めご了承ください。



主催 JDDW 2022 第26回日本肝臓学会大会
共催 慶應義塾大学医学部 病理学教室
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35

お問い合わせ 市民公開講座 運営事務局
株式会社コンベンションリンク内
〒102-0075 東京都千代田区三番町2

TEL 03-3263-8688(受付時間:平日10:00~17:00)
※9月11日(日)当日の連絡先は、参加者に別途ご案内いたします。
E-mail jsh26-pub2022@c-linkage.co.jp